

諦崇寺報

諦崇禅寺 発行
藤井崇文 編集
〒631-0065
奈良市鳥見町
2丁目28-10
0742(37)2569
www.rittouji.jp

本当に欲しいモノですか？

私は七年ほど前、福井県の永平寺で安居(修行)しておりました。時折、テレビで雲水(修行僧)の修行風景が紹介されますが、画面には映らないう姿も沢山ありました。その一つは、永平寺で実際に生活を送ってみると「とにかくお腹が空く」ということでした。

永平寺のお食事、朝はお粥です。お粥にたま塩をかけて頂きます。お昼は二汁一菜、ご飯とお味噌汁。そこに一品付きます。その一品はお野菜の煮物であったり、お浸しであることが多かったのです。夕はそれが二品になります。



修行僧は僧堂(坐禅、食事、睡眠をするお堂)に横一列に並んで坐禅を組み、お食事を頂きます。

そこへ浄人(給仕の当番)がお皿の入ったお盆を持って来ます。そして給仕する側される側が互いに合掌(一礼した後)、各自でお皿を取っていきます。

その際、とても情け無いのですが、お盆に並んだお皿を前にして「どれが沢山入ってるかな」とパッと見てしまいます。例えば人参の煮物でしたら、大きな一切れが入ってるのが良いか、小さくても二切れ入ってるのが良いか、そんなことを真剣に考えます。

それまで人參の大きさに血眼になることなど無かったのに、自分でも情けないと分かっていても、ついつい見比べてしまいます。

それでも哀しいかな、永平寺では何事も厳格な作法があり、お皿を取って行く順番も決まっています。「あっちの方が多いなあ」と悔しい思いをしながら、渋々取ることもありました。永平寺の生活はそれ位、お腹が空いていました。ただし、お腹が空いているが故の面白いこともありました。永平寺の生活はただ辛いばかりでなく、楽しいこともありました。

例えば修行僧というこんな話をします。「あの線香がポッキーだったらいのになあ。」「うん。茶色のお線香はチョコレート味、緑色のお線香は、抹茶味かな。」「何本あるから、一人何本ずつ。」「この様に苦しい中での微笑ましい一コマもありました。

そうして永平寺ではお腹が空いてお腹が空いて、ずっとお腹が空いています。しかし三月、半年経つと、ある時ふと気付きます。「腹四分か五分位の量しか食べず全然足りないのに、雑巾がけは元気に出来るし、お経も唱えられる。もちろん坐禅だって出来る。もしかすると、これが腹八分なのではないだろうか。」

一般に腹八分の量を食べるのが良いと言われる。しかし私は永平寺へ行くまで腹八分丁度の量を食べたことはありませんでした。だいたい九分、十分、十一、十二、「もうこれでお腹いっぱい」というまで食べていました。つまり、腹八分という量を知りなかつたのです。ところが永平寺へ来てようやく「ああ、これが腹八分だったんだ。これで充分だったんだ」と気付くことが出来ました。

「無くてはならない」と思っているにも、本当に必要なモノなのだろうか。

「どうも世に欲しい」という思いに、取り憑かれてしまえば、追いかける「モノ」ではないだろうか。そう思うことは他にもあります。

良く言われるのは、携帯電話。自分が持ちたくて持ったつもりがある所から何処に居ても連絡が来る、逃げられない、追いかけられている、そう感じることはありません。また反対に学生の頃は、メールが全然来ないのも寂しい、と思うこともありました。

最近、今年の夏からアナログテレビは映らないうことでも悩んだ末、デジタルテレビに買い替えました。店員さんに勧められたのは、番組を録画することが出来る機種でした。すると「折角、録画機能があるんだったら、やはり使いたい」となります。毎朝、新聞のテレビ欄を眺め、「五木寛之、仏教への旅」か。僧侶として見ておかげほ!と考えると、リモコンを操作して予約を入れます。

さらに「あ、五夜連続?」と気付いてしまえば、さすが明日の分も明後日の分も、と予約を入れます。そうするとどうも、これは自分がやりたくてやっているのか、何かに追いかけてられているのか、分からなくなってしまう。

東日本大震災を経験した私達は「何よりも命が大切」と思い直しました。そして電力不足による節電を強いられ「本当に必要はモノ」を振り分けたいと感じます。「よく考えれば、暑い夏に無理してスーツを着て、エアコンを効かせる必要は無かった」なごです。モノがあれば欲しい、周りの人が持っていたら余計に欲しい。確かに欲望があるからこそモノが売れ、経済が回っていきます。しかし、私達は溢れる情報に煽られて、欲望や経済の側に偏り過ぎたのではないのでしょうか。

腹八分の丁度良い所までは欲ではありませぬ。それなのに私達は腹八分を考えないままに、それを

超えた欲望に追いかけられ、何かを我慢する、節約することに對してある種の恐怖心すら抱いてしましました。それが、節電を心掛ける生活を送ってみると、多少不便なことであっても「寧ろ、欲望から離れて楽になった」とことも多くありました。

とは言うものの、欲を全部捨ててしまつのは難しいことです。私も永平寺であんなにお腹が空いて「これが調度良い量なんだ」と分かって、またこちらに戻って来て、食べるものがあるというついでに食べてしまいます。欲を全部捨ててしまつというのは中々難しいことです。

そして、一人で欲を捨て去るのも難しいことです。永平寺でも一人だけ食事の量が少なければ、とても耐えられませんでした。

私たちは震災を経験した今だからこそ、何かを学ぶ必要があるはず。それは社会の一人ひとりが自分の欲を見つめ自覚して、そして社会全体として「本当に必要なモノは何か」を常に考えていくことだと思えます。

欲を捨て去ることは難しくても、欲に追いかけて苦しいものではなく、立ち止まり振り返って、欲を見つめ制御する努力が、せめて求められていると思えます。



あとかき
ホランティ
ア活動で岩手
県宮古市へ行
きました。「被災地のことを忘れないで欲しい」と多くのの方が仰いました。

「無常」とは悪くなることばかりでなく、良い方へ向かうことも意味します。一刻も早い復興を祈願し続けます。
崇文 拝

栗東寺ホームページ
http://www.rittouji.jp/
栗東山 栗東寺